

### 3-4-3 林羅山と下呂温泉

江戸時代の儒学者 林羅山（1583～1657）の詩文集巻第3に「我國諸州多有温泉 其最著者 摂津之有間下野之草津 飛驒之湯嶋是三處也」とあり、現在の有馬・草津・下呂を三名泉とする由来である。羅山は京都に生まれ、和漢の博識をもって、徳川家康より秀忠・家光・家綱に至る4代の将軍に仕え、幕府の学問と政治に参画し、数多くの書物を著わして、朱子学をはじめ孔孟の教えを講じた。

下呂温泉に泊まり、入湯されるお客様が、平成元年（1989）に150万人を超え、今日の発展をみたのも、この詩文集「天下三名泉」のおかげと言える。ここに、山間の湯に猿と遊ぶ羅山先生像を建立し、その遺徳を顕彰した。

平成壬申4年3月

説明板より